

食と環境保全特別コース

Progress 食と環境保全特別コース設置にあたって

日本の食の安全特別コースは、これまで80名近い留学生を世界10か国から受け入れ、食の安全に関する知識や技能、並びにビジネスでも通用する日本語能力を身につけさせ、日本の食品企業に送り出してきました。コンソーシアム企業や賛助会員企業の皆様には、インターンシップ実習の受け入れや留学生の採用などでご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。

このたび、2024年10月から「食と環境保全特別コース」として新たな一步を踏み出すことになりました。その経緯についてご説明させていただきます。日本の食の安全特別コースは開設から15年が経過し、この間に日本の食に関する状況は大きく変化しました。ウクライナ情勢による食料価格の高騰や気候変動、農業の担い手不足による食料生産量の低下など、食料安全保障の確保への懸念が高まってまいりました。食の安全確保は重要ですが、食料の持続的な確保が十分に担保されなければ食の安全を守ることもできません。このような理由で、留学生の教育方針を、食の安全教育から、地球の生命環境と食料供給を持続させる教育へと変えることになりました。

食と環境保全特別コースでは、ベトナム、タイ、インドネシアなど東南アジア諸国から優秀な大学生をリクルートし、気候変動やSDGsに対応した食料生産や環境保全に関する幅広い専門知識を身に付けさせます。なお、日本の食の安全特別コースで培った経験を活かし、インターンシップ実習や手厚い日本語教育は継続してまいります。また、英語力を高めたい日本人学生も食と環境保全特別コースに受け入れ、留学生と同じ教室で共に学ばせ、異なる文化や価値観を理解できる日本人のグローバル人材も育成してまいります。コンソーシアム企業や賛助会員企業の皆様におかれましては、今後も引き続きご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

（小川学部長）

Topics 食と環境保全人材育成プログラムの展望と現状

食と環境保全特別コースが昨年11月に文部科学省の国費特別枠に採用されました。1月から3月に実施した入学試験で、タイ、インドネシア、カンボジア、ベトナム、フィリピンから、3名の国費と3名の私費の合計6名の留学生を合格としました。現在、入学予定の留学生達に遠隔で日本語の渡日前教育を行っており、来たる10月には日本語能力試験N4程度以上の新入留学生を迎える予定です。

現在、英語能力の高い（CEFR B1以上）日本人学生や本学を含む日本の大学等を卒業した日本語能力の高い（日本語能力試験 N3以上）私費留学生の募集要項などを整備しています。これらの入学制度の広報活動を活発に行い、多様な学生を受け入れたいと考えています。これらにより、10月に入学の留学生以外にも4月入学の私費留学生と日本人学生を受け入れ、留学生と日本人学生との協働学習体制を構築して、日本を深く理解する留学生および国際感覚のある日本人学生の育成を計画しています。

さらに、以前の日本の食の安全特別コースは、食の安全に特化した教育を行っていましたが、食と環境保全特別コースでは、幅広い農学分野の教育を行うために主に日本語で行われる「スマート農業特論」「環境保全学特論」「農業・食品産業経営特論」「科学技術イノベーション特論」「食品加工学特論」「社会人基礎力特論」「農場演習」「環境保全フィールド演習」「食品産業キャリア演習」を中核とした講義と演習科目を開講し、実践的に食と環境保全に関連する専門的知識と考え方を身に付けさせる教育プログラムを準備しています。また、専門科目としては農学研究科のAAP特別コース（英語のみで教育が行われるコース）の英語で行われる専門科目も1科目以上必修にしており、日本語と英語での専門科目を履修させます。さらに、修了要件として、日本語と英語共にCEFR B2以上の語学力を要求しており、このための日本語力強化科目群と英語力強化科目群も配置しました。これらの教育プログラムによって、日本をよく理解して、母国語、日本語と英語を扱えるトリリンガルで専門性の高い留学生と国際性の高い日本人学生の育成を目指しています。



ポスターにて国内大学に案内

（川村教授）

News SSプログラム実施について

数年間の留学生受入の中断を乗り越え、留学生が再び大学に戻ってきたことは、国際交流にとって、大きな一步を踏み出した象徴だと思います。3月28日から5月23日の間、協定校であるタイのアサンプシオン大学とカセサート大学から4名の留学生が生がショートステイ（SS）プログラムに参加し、食品科学領域の研究室で日本人学生と協力して研究プロジェクトを進めました。さらに食品科学のみならず、農学部全体の講義や実習を通じて専門知識を深めました。味の素冷凍食品四国工場への訪問では実際の産業界での応用を見聞する貴重な機会を得ることができ、農学部での希少糖入りアイスクリーム実習や讃岐うどん実習を通じて、香川県の特産品の化学的性質や加工の特徴を学びました。このような活動は農学部の伝統的な国際交流を継承し、研究と産業界に貢献する優秀な人材を育成する重要な役割を果たします。今後も、本コースで国際交流が活発に行われ、留学生と日本人がお互いを高めあっていくことに大いに期待が高まります。



プログラム修了証書授与の様子



各学生による研究発表後に行われた閉講式

（ヨネクラ教授）

News 留学生採用企業より

ケーオー産業株式会社と申します。弊社は、主に食品を中心とした商社として、価値ある食品原料を世界中の国々から調達し、日本のお客様へお届けしています。また、食品メーカーとしての特徴も併せ持っており、主に業務用の冷凍食品の開発を行っています。自社工場を持たないファブレスメーカーの特徴を生かし、自社で開発した商品の価値を実現できる食品加工会社を、東南アジアをはじめ世界中から選定し、美味しさにこだわりの商品を生み出しています。

この度、香川大学農学研究科「日本の食の安全特別コース」第14期生のレイバンさん品を品質保証部員として採用させていただきました。今回のご縁に感謝申し上げます。

前述のように、弊社では東南アジアをはじめとして、世界中の国々から商品を生入れており、その品質管理も重要な業務となります。今回入社いただく、ベトナム出身のレさんが今後、母国の大学で学んだ知識と香川大学農学研究科での研究成果を活かし、美味しさにこだわりの商品を持った安心安全な食品を世に生み出す一翼を担ってくれることと願っております。

（ケーオー産業株式会社 越智保夫 取締役社長）

Review 修了生ネットワークと今後のサポート

2024年の10月入学生より修士課程の「日本の食の安全特別プログラム」は「食と環境保全特別プログラム」に代わります。農学部全ての教員が指導可能なプログラムになり、様々な分野で学びたい学生を受け入れる体制を整えています。2009年以降、日本の食の安全特別コースで就学・修了した学生は80名近くになりますが、修了後も修了生とSNS等で繋がっているため、近況を知ることができています。中国では互いの結婚式に修了生が中国各所から集り、タイ、ベトナムでは再就職のために日本の食の安全特別コースの留学生ネットワークが活用されています。今後も修了生が増加することが予測されるため、我々スタッフと修了生をつなぐネットワークを強化にし、修了生の活動も香川から支援していきたいと考えている今日この頃です。

（田村特命教授）